

四旬節第2主日 マタイ 17: 1～9

朗読されたマタイ福音書 17 章の前に遡ってみます。受難予告の場面です。16 章(21～23 節)の終わりにこうあります。

ペトロはイエスを脇にお連れしていさめ始めた。「主よ、とんでもないことです。そんなことがあってはなりません。」イエスは振り向いてペトロに言われた。「サタン、引き下がれ。あなたは私の邪魔をする者。神のことを思わず、人間のことを思っている。」

イエス様からこう言われたペトロは衝撃を受けたでしょう。「私はイエス様(先生)のためを思って言っただけ。どうしてそこまで言われなきゃならないんだ？ 先生の考えてることは私の理解を超えている。多分、私のことを怒ってる。もういい顔をしてくださらないだろう」 ペトロは動揺していました。これからどうなるのか？ ペトロは受難予告を不吉に感じたでしょう。

そして、今日の箇所が続いています。変容されたイエス様を目の当たりにしてペトロは喜び勇んで「主よ、私たちがここにいるのは素晴らしいことです。」と口をはさみます。受難予告で動揺していたペトロは、イエス様の素晴らしさを実感し直します。そして、強い責任感でこう言います。

「お望みでしたら、私がここに仮小屋を3つ建てましょう。1つはあなたのため、1つはモーセのため、もう1つはエリヤのためです。」 ペトロ自分の気持ちに正直で表裏はありません。大好きな先生のために何かしないではいられません。イエス様の一番弟子だという自負心に偽りはありません。

でも、私たちはペトロが結局、イエス様を3回否んでしまったことを知っています。ペトロを「臆病だ」とか「情けない」と思ってしまうかもしれません。ペトロは態度をコロコロ変えてる、と批判するかもしれません。でも、神様に会うということは、自分の理解を超えること、神様に翻弄されることなんじゃないでしょうか？ それが信仰を生きることではないでしょうか？

私たちは神様と会うことをどう考えているでしょうか？ ペトロのように「先生(イエス様)のなさることはわからない。自分の理解を超えている。」と思っているのでしょうか？ あるいは「信仰生活はこんなもの。取り立てて何も起こらない」と高をくくってないでしょうか？ 「四旬節、聖週間、役割分担さえできれば、あとは大丈夫」と思ってないでしょうか？ わかったつもりになってないでしょうか？

神様は、私たちに新しいチャレンジを与えて、次の段階へ成長するように計らってくださっています。四旬節はその「恵みの時」です。恵みを取り損なわないようにしましょう。慣れは禁物です。慣れは、「恵みの時」を「ただの過ぎ去る時間」に変えてしまいます。

イエス様は弟子たちに「人の子が死者の中から復活するまで、今見たことを誰にも話してはならない」と命じました。誰にもわからないから、口止めされました。

「理解できないことが待ち受けている」そんな緊張感を持って四旬節を過ごしていきましょう。神様の私への計画をうやうやしい気持ちで、受け止めましょう。